

回關東俠客傳 (全四篇二十卷)

帝キネ小阪映畫

第一篇 (劍豪無双の巻)  
脚色者 阿久禮之助氏  
監督者 古海 卓二氏  
撮影者 吉田 俊作氏

第二篇 (剛膽不敵の巻)  
脚色者 内田 徳司氏  
監督者 山下 秀一氏  
撮影者 橋田 干氏

第三篇 (白刃亂舞の巻)  
脚色者 近松 門吉氏  
監督者 森本 登良大氏  
撮影者 吉田 俊作氏

第四篇 (鐵火猛闘の巻)  
脚色者 近松 門吉氏  
監督者 森本 登良大氏  
撮影者 吉田 俊作氏

各篇主要役割  
赤尾の林藏 尾上 紋十郎氏  
伊達のお鐵 津守 玉枝嬢  
青木 求女 尾上 紋壽氏  
國府津の角一 片岡 童十郎氏  
秋山 要介 尾上 紋彌氏  
原仙右衛門 同

高萩の猪之松 瀨川路二郎氏  
お近の父 同  
千阪兵部 同  
火の玉慶助 同  
酌婦お富 同  
目の玉藤助 尾上 卯多藏氏

(略筋及び批評は略。)  
興行價値——關東の俠客赤尾の林藏の傳記であつて、講談の長講といふ形の映畫である。國定忠次、清水次郎長、幡隨院長兵衛等の最も知名の俠客映畫類の中に、巷間の人氣の一枚下格の俠客傳だけに、その名目では一寸客を呼べない代りに、何と各篇の獨立題名の奇抜警妙である事よ、内容は正に顔名に顔負けの型である。連続映畫としての長所も見當らず、單に一篇毎にラストをなんぞひ連続映畫の型に倣め込んでゐるに過ぎない。人不足の爲か同一俳優が幾度も異つた人物になつて出演する事なども、観客に對する印象を悪くすると思ふ。所謂呼物にはなるまい。(五月十四日第一篇、五月廿一日第二篇、五月廿八日第三篇、六月四日第四篇、大坂青透劇場封切) (前號に寫眞版あり)